

開催日	7月27日(水)	会場	新陽小学校 体育館	
時間	18:00~19:50	参加人数	38名	
計画位置付け	令和9年度 小学校統合(鳥取小学校・新陽小学校)			
質問	<p>Q1-1 小中一貫教育で本当に課題は解消されるのか。新陽小が無くなった場合、地域の過疎化に拍車がかかるのではないかと懸念されている。スクールバスの運行に異論は無いが、バスに乗り遅れた子どもへの対応はどのように行うのか。歩いて通学することで、子ども達のコミュニケーションが図られ、仲良くなるのではないかと懸念されている。使用しなくなる学校は、町内会とも相談して、一部教室等の施設を町内で使用することはできないのか。</p>			
回答	<p>A1-1 小中一貫教育で全てが解消されるとは考えてはいないが、課題解決の方策の一つであり、緩和が期待できるものと考えている。スクールバスに乗り遅れた場合は、歩いて通学することになるが、バス時間を守ることで、乗り遅れると歩くことになるということ覚えてもらいたい。また、検討委員会内でも、徒歩による通学の利点についての言及があった。友人との会話、地域の人との関わり等、徒歩通学の際に得られる利点はある。仮にスクールバスが運行された場合、全ての子どもたちを強制的にバスに乗るのではなく、保護者さんの考えでは徒歩を選べるようにしたいと考えている。</p> <p>校舎の跡利用については、このたたき台はまだ確定されたものではない、たたき台であるため、跡利用については現段階では全く考えていない。今後計画が策定され、跡利用施設が確定した時点で、検討を始めることとなる。</p> <p>また、学校が地域からなくなってしまうと過疎化に拍車がかかるのではないかと懸念されている点については、学校機能は別の場所に移行したとしても、住民の子供たちが居なくなるわけではないので、この学校のあり方とは切り離し、児童生徒が抱えている教育課題の解決のためという観点で考えさせていただきたい。</p>			

質問

Q2-1 たたき台が出されるまでの間、どのような人たちにより、どの位の時間をかけて議論が行われてきたのか。

学校には、それぞれ作られてきた経緯、伝統がある。それを無視して計画を策定するのはどうか。弟子屈、白糠、標茶、厚岸、浜中では、ずっと複式が行われてきており、地域の学校を守るため先生方は努力をしている。北海道は、かつて僻地、複式をリードしていた自治体。釧路、根室管内の学校では、いまだ実践されており、管内で頑張っている学校に対して失礼だと思うことから複式学級に対する発言の撤回を求める。

市PTA連合会と懇談を行っているが、単位PTAと行うべきではないか。該当する学校の親や子ども達にとっては、自分の学校が無くなるということであり、どうして単位PTAと懇談をしないのか。漏れ聞こえるところでは、この計画の内容を実践するのは学校の先生方や地域とのこと。校長会、教頭会に7月に説明するというのもおかしい。あり方検討委員会の委員構成がどうなっているのかも分からない。12月の完成は早すぎるので、やめてほしい。

統廃合を行う学校には、きめ細かく丁寧に意見を聞くことが必要。新陽小、城山小、武佐小それぞれの学校に経緯、歴史があり頑張ってきたことも尊重しなければいけない。ある町では、学校統廃合をする際には、案を示さずに丁寧な話し合いにより行っている。市教委のやり方は上意下達に見える。教育の主体は子ども達と親達。そのことを良く考えてほしい。市の子ども達の不登校やいじめや中1ギャップが多いなら、人数がどれだけいて、教育委員会ではどういった施策を打ってきたのか。その姿が計画には全然書かれていない。真面目に子ども達を救いたいと思うなら、スクールカウンセラーや臨床心理士といった不登校対策の専門家配置を市独自でやれば良い。失礼だが、市教委は職務を果たしていないと思う。子ども達は「うちの担任は来年も担任をしてくれるかな」と言っている。欠員補充の教員を今年、市教委は何人雇っているのか。皆さん1年の雇用であり、子ども達の不安も分かる。定数法上決められているのだから、正規の教員を配置してほしい。小学校も2学年の担任制なら、2学年担任ができるように体制を整えてあげてほしい。私も見て驚いたが、小学校で70%以上が欠員補充の教員。定数法上決められ、配置しなければならない教員を配置できないでいるのは教育委員会の責任。そういうことも示さないで、このような案を出してくるのはおかしい。学校評議員制度やコミュニティスクールに携わっている人達もみんなこの計画を知らなかった。きめ細かく色々な人達の意見を聞いた案ではないと思うので、撤回してほしい。

<p>回答</p>	<p>A2-1 あり方検討委員会の委員の構成としては、14名で、学識経験者として大学の先生、小中学校校長会・教頭会・幼稚園連合会・高等学校校長会、また保護者としては市PTA連合会からの参加を頂き、地域としては連合町内会・民生委員児童委員協議会や公募委員3名で構成されている。これまで8回の会議を開催し、その協議についての中間報告を頂いているところである。</p> <p>市P連とは、日程調整の段階で相談し、再編対象校で地域懇談会を開催する計画であることから、地域懇談会に参加できなかった保護者が参加できるように市PTA連合会としては全体で1回の開催ということで日程を決めた。市PTA連合会との懇談会は、役員以外の会員も参加していただき、広く声を頂きたいと思っている。</p> <p>複式の指導方法など、北海道は研究が進んでいるのは事実であるが、若い先生方には難しいことも事実である。道内においては、複式を少しでも解消していきたいという動きがある。地域としては学校を残したいが、通わせる保護者は車で15～20分かけて隣町まで送っているという実態がある。音別のように近隣の学校が離れている場合は仕方がないが、釧路地域では複式を回避していきたいと考えている。</p> <p>不登校の解消に向けて、リーフレットを作ったり、別室登校やオンラインでの授業を行ったり、学校に戻すのではなく、居場所づくりを実施している。中学生になってから多くの不登校が起きている。不登校の子供を生まない仕組みがあるなら、小中連携の中で作っていききたい。</p> <p>計画策定スケジュールについては、来年からスタートするわけではなく再編には3年程度の準備期間を設けて協議していく。</p> <p>不登校が令和2年度で400人弱まで増えている。そうした課題の解決を目指すためには、早すぎる計画策定ではないと思っている。教員確保については、年度当初は足りていたが、病休・産休により欠員補充の教員となっている。期限付きの教員のなり手がいない実態があるが、市教委としてしっかり行っていかなければならないと考えている。</p> <p>不登校については、不登校全道・全国平均を上回っている状況である。昨年度1,000人あたりの人数で全国が40人、全道が50人、釧路市が70人という状況である。釧路市の不登校の理由は、家庭環境、中学校の勉強についていけない、いじめのような嫌がらせで行けなくなったなど様々であり、学校は早期発見・早期対応を行っている。学校が機動力を発揮できるよう市教委としてもタイアップしながら出現率を下げていきたいと考えている。</p> <p>新陽小学校の伝統については、関係者・先生方には敬意を表し、感謝しかない。ただし課題を解決できる魔法の杖があるわけではない。こういった解決策があるかを検討してきて、本日も説明しているたたき台となっている。</p> <p>今年度はスクールカウンセラーを3名、スクールソーシャルワーカー13名を配置しており、各小中学校を回り、カウンセリングを行っている状況である。人材確保の視点では、足りているかどうかは疑問であるが、引き続き必要な人材は確保していきたい。</p>
<p>質問</p>	<p>Q1-2 支所の問題でもそうだが、教職員組合には内諾を得ているのか。</p>
<p>回答</p>	<p>A1-2 学校には、校長先生を通じてたたき台については通知している。 今週教職員組合と、学校のあり方をはじめ、教育課題や免許の更新制度などの説明といった意見交換を行う予定である。</p>

<p>質問</p>	<p>Q3-1 就学前の子どもを持つ保護者の間では、鳥取小まで歩かせるのか、バスはちゃんとあるのかと通学についてすごく心配している。この周辺に引っ越しを考えている私の知人も報道で学校統合を知り、鳥小の近くにしようかといった話をしており、すごく不安に思っているのが事実。スクールバスでの登校に関して、この地域で言えば大通りを2本跨いで鳥取小に行くことになる。低学年や冬場の通学は、工場が立地し車通りも多いことから心配であり、何かあってからの対策ではなく事前の対策を徹底してやってほしい。</p> <p>先月、新聞報道で初めて今回の件が出たが、子どもの教育に関することなので、教育委員会から学校、学校から親御さんに発信をしてもらい、しっかり話しが固まった段階で報道に出してもらいたい。この地域懇談会に関しても、この場で出ていない話しが新聞報道に出てくるのであれば、この地域懇談会に出た意味は何だったのかという思いにもなるため、情報発信の順番については慎重に考えてほしい。そうした対応の上で、少子化問題を解決するためということであれば、話の筋は通ると思ったのだが、12月に完成させる予定であるとの説明については残念に思うので、策定期間については今後しっかり検討してほしい。</p>
<p>回答</p>	<p>A3-1 通学路の安全については、保護者さんが最も心配されている事柄であると認識している。統合により校区が広がり、通学距離が延びる場合が出てくるため、スクールバスの運行も必要になってくると思う。この場でスクールバスを出しますとはお話できないが、ぜひ保護者さんから必要といったご希望をだしていただきたい。計画が確定すると、開校に向けて3年前に保護者・教員・地域・コミスクを設置している場合はコミスクで、開校に向けた準備協議会を設置することになるので、そこで通学路の安全を確認いただくことになる。低学年には徒歩が厳しい、ではどこからどこまでスクールバスを出すのかといった内容について検討することになる。</p> <p>報道については、6月に入り市議会にてたたき台を報告し、それに合わせて報道機関に内容を説明している。このたたき台は決まった計画ではなく、あくまでご意見を頂くためのたたき台であるため、7月に開催する地域懇談会で頂いたご意見を踏まえて今後の計画（素案）の策定に進めていきたいとの説明をしているが、そこが伝わらなかったのは説明の仕方に問題があったのかもしれないが、まだ決まったものではないと市議会に対しても説明している。</p>

質問	<p>Q4 小中の校区を揃える形で小中一貫の形を作っていくと思うが、これだと単に児童生徒の母数が増えただけで、小規模校のデメリットとして挙げられている「集団の中で、多様な考え方に触れる機会や学びあいの機会、切磋琢磨する機会の減少」ということが小中一貫においても起こるのではないかと感じた。中1ギャップという問題にフォーカスして取り組んでいるという印象を受けたが、それに対しての対応を前面に出していても良いのではないか。中1ギャップの問題に関しては、市民が問題意識を持てるように分かりやすく訴えかけてくれた方が良かったと思った。</p>
回答	<p>A4 今年度から始めた小中ジョイントプロジェクトについては、中学校区を単位として学力・不登校・特別支援教育について課題解決のために小中の先生方が集まり、連携して協議する連携協議会を設置している。また、中学校の試験期間中は小学生の読書週間と位置づけ、兄弟の試験勉強に合わせて弟妹は読書をするなどの取組を始めたところである。来年度に向けては家庭学習習慣を小学校高学年から行うよう進めたり、また小学1年から中学3年まで9年間で読書週間がつくよう小学校の図書ボランティアを中学校にも入っていただき、読書離れしない取組を行っている。鳥取中校区でも行っている。</p> <p>中学校区で、さらに幼稚園・高校も入った中で連携を進めようとする校区も出ている。中学校の英語や数学の先生による小学校への乗り入れ授業を始めているところもある。先生の時間数の調整が難しいが、施設一体型の学校になれば、一人の校長の下でさらに進めることができると考えている。</p> <p>中学校区の単位で小中をそろえると人間関係が固定化されるのではないかという点では、市教委は不登校や問題行動を少なくし、子ども達が学習に集中できるよう、また友達づくりなどをできる環境づくりをしたい、と考えており、小中が家庭生活・学習状況などを情報共有をすることで、問題を抱えないようにすることが最優先だと考えている。</p>
質問	<p>Q5-1 教員のなり手がいない原因は調べているのか。今、いじめの問題が全国で起こっているのは、教員と児童生徒のコミュニケーションが少ないからではないか。報告ものの仕事が多く、児童とのコミュニケーションを取れないと聞いたが、どうなのか。</p>
回答	<p>A5-1 教員のなり手不足についての要因の一つは、教員の過酷な職場の影響であると言われていた。現在教員が子供たちに接する時間が少なくなっているという点については問題となっている。そこで教員の働き方改革として取り組みを進めている。例えば新陽小のように帰りの見守りを地域の方にやっていただくことで、先生方の時間が出来る。調査ものについては、市教委が独自で依頼するものはなく、ほぼ文科省や道教委からの調査ものとなっているのが現状である。</p>

質問	<p>Q3-2 令和9年度の統合が決まったと仮定した場合、どの時期まで新入生を受け入れるのか。新陽小は児童数が少ないが、少ない学校には少ない学校なりの良さがあり、1年から6年までみんなが仲良く遊んでいる。令和9年度に統合するとなった場合、仮に5年度、6年度当たりから、新入生は先に鳥取小に入学し、お兄ちゃんお姉ちゃんは後から鳥取小に行くという話もあると思う。どのタイミングで行くのか慎重に考えなければ、中1ギャップならぬ統合ギャップという状況で、子ども達が付いていけなくなるだろうし、子ども達は新しい学校に行くことにものすごく不安を感じると思う。統合のタイミングは、保護者や学校としっかり話をした中で方向性を決めて行動に移してほしい。</p>
回答	<p>A3-2 受け入れは前年まで普通に実施する。再編以前に、鳥取小への入学を希望される場合は、鳥取小の入学を許可するようにしていくことになる。また、再編の3年くらい前から、小学校同士の交流を設けていく。行事を共同で開催したりして、同じ学校になるとういう気持ちを高めていく取組を行うことになる。また、統合校の教員は、新陽小の教員と鳥取小の教員で構成されることになる。</p>
質問	<p>Q6 地域の懇談会をやる前に、現場の先生やPTA、父母の会との懇談、さらにはこれから学校にあがる保育園児の父母への説明ということを先にやってから進めるべきだったと思う。検討委員会の委員の人選をどのように行ったのか聞きたい。地域の方の見守りという話しをしていたが、新陽小が統合した場合には、こうした見守りはできなくなる。スクールバスで通うことになったら、地域の子も達放課後どうしているかということが全く見えなくなる。義務教育学校の開校までには3年間あると言うが、計画を立ててからではなく、立てる前に懇談会や話し合いを進めてから基本計画を完成させるべきではないか。</p>
回答	<p>A6 検討委員会の委員には、教員の意見を頂くべく校長会・教頭会から参加いただいている。また、公募の3名については、お一人はお子さんを持つ方、もう一人はお子さんは居ない方で学校には直接関わっていない方としてご意見を頂ける方、もう一方はコミスクに関係している方となっている。応募の際には教育課題についてのご意見を書いて頂き、その中で選定させていただいた。</p> <p>一つ一つの団体との集まりは難しいので、今回は14箇所の地域懇談会に参加いただくよう広報を行ったところである。</p> <p>学校が再編となっても、居住している小学生は居るため、地域から子ども達が居なくなるわけではない。またスクールバスについては、新陽小学校から鳥取小学校へのルートを考えており、新陽小学校へ一度集まる形を現在想定している。引き続き子供たちを見守っていただきたい。</p>

質問	Q2-2 年次別実施計画では、令和6年度に桜が丘中、景雲中、北中が一部学校選択ゾーンに入る。そうすると、この子ども達は学校を選択する場合、春採だけ桜が丘に行く等の際、制服やジャージ、カバンの変更問題が出てくる。様々な規則等の改定案は遅くとも令和5年度の3月か6月に決めないと子ども達や親に不便をかけることになるため計画づくりを急いでいるのか。義務教育学校については、3年間準備協議会を設けるとのことだが、統合する小学校もその位時間をかけて丁寧にした方が良いのではないか。
回答	A2-2 通学区の変更については、新一年生から導入することを予定している。またお兄さんお姉さんがいる場合は、旧校区の学校に入学することが可能であるとする。令和6年度の新入学生から行っていきたいと考えている。規則改正は、前年度に行うことを予定している。小学校の統合も義務教育学校の開校も、開校の3年ほど前に、開校準備協議会を設置することを予定している。
質問	Q7 新陽小の放課後児童クラブは、新陽小がなくなった場合に一緒になくなるのか。
回答	A7 放課後児童クラブについては、保護者さんにとって大変重要な事柄であることを認識している。このたたき台が計画としてお示しするときにはある程度の方向性を出していきたいと考えている。
質問	Q6-2 市内の不登校の人数が約400人いるとの説明だったが、そのうち、中1ギャップが原因の人の割合がわかれば教えてほしい。計画の内容について小中一貫ありきということではなく、子ども達の現状をしっかりと見て、全ての家庭へのWi-Fi設置支援や学校給食無償化などといったことも一緒に考えてほしい。
回答	A6-2 不登校の原因は、学力についていけない、家庭問題など理由は様々あり、直近では389人が不登校になっている。不登校の子に寄り添いながら、その子にあった学習方法や経験を積んでいくように、オンライン学習など個々の状況に合わせて不登校に対応している。家庭の格差については、Wi-Fiの設置支援や学校給食の無償化により学力の向上や不登校の解決に係るエビデンスがないため、市としては、子ども達に寄り添った対策を講じていく。
質問	Q8 昭和地区は子どもが増えている印象だが、例えば、鳥取小から新陽小に一部児童を移し、昭和小から鳥取小に一部児童を移すといった対応は検討しなかったのか。
回答	A8 校舎の利用については、鳥取小と新陽小の規模を考慮すると、新陽小が小さいことから、建物としては鳥取小が有利であるということで鳥取小の利用を考えたところである。令和4年5月1日時点では、昭和小学校の児童は640名ほどいるが、5年後には約100名程度少なくなる推計となっている。鳥取小から新陽小に校区変更をして児童を一部移し、昭和小から鳥取小へ一部移すという考えは持っていなかった。
質問	Q1-3 スクールバスの運行経路については、市教委だけで考えるのではなく、学校や地域住民の意見も踏まえて考えてほしい。
回答	A1-3 このたたき台の案が確定して、スクールバスが運行されることになる場合は、開校の3年前には、開校にむけ様々な事柄を協議検討する保護者・教員・地域住民による協議会を立ち上げることになるため、そこで運行経路なども検討することになる。

質問	Q5-2 学校開放や避難場所の扱いについての検討はどのようになっているのか。
回答	A5-2 この計画が確定しているものではないので、跡利用についてはこれからの話であるが、現在学校開放などで校舎を利用されている場合は代わりのモノが必要になるので、今後使用方法を検討していくことになる。学校は統合しても、使用しなくなる学校がすぐ除却されるわけでないため、基本的な考えとしては、利用されている建物については引き続き利用できるようにしていきたい。